

2019年度派遣（8月9日～9月3日・3週間）

アメリカ ワーナーパシフィック大学

環境学部3年 大島 都紀央

このプログラムで目標としていたことは、アメリカと日本の文化の違いを学ぶことでした。そのために、しっかり現地のことについて調べたり、現地の人に話を聞いたりするなどの努力をし、初体験のことに対して恐れずに取り組んだり、アメリカの文化を自ら進んで体験したりするように努力をしました。

授業の一環としてあったボランティアワークでは、ポーランドの公園でのゴミ拾い、デイケア施設で子どもとの触れ合い、老人ホームで利用者さんと話しをするなどをしました。このボランティアで子どもから老人までの幅広い世代のアメリカの人と関わることができ、英語でのコミュニケーションを通して楽しく接したり、遊んだりすることができました。またアクションプロジェクトでは、アメリカの生活様式や都市と田舎の在り方、自然と街との共生の仕組みを実際に見て、学ぶことができました。3週間という短い期間でしたが、こちらで関わったクラスメイトやホストファミリー、先生、その他の協力者の方々との出会いに恵まれ、これらの方達と育んだ絆も今回の留学の成果として挙げたいと思います。



環境学部 3年 市場 悠暉

プログラムが始まった頃はホストファミリーから話しかけられたとき、内容が理解できず2回以上聞き返すことがほとんどでした。返答に関しても自分の言いたいことが上手く英語で伝えられず、もどかしい場面がたくさんありましたが、日を追うごとに相手の英語が聞き取れ、理解できるようになり自分の意思表示を行うまでできるようになりました。それでもネイティブスピーカーの話すスピードについていけないときは、素直にわかenらいと伝えることによってゆっくり話してもらい、また説明してもらうことで理解ができました。このようにして英語に慣れ、短い研修期間でも積極的に話しかけることができるようになり、英語に関して強い苦手意識を持っていたが、楽しく会話ができるようになったことは大きな実りとなりました。

